

景気動向調査報告書

令和7年4月末調査

この調査は、岡谷市の基幹産業である製造6業種（精密、機械、電気、計量、表面処理、
鋳造）の企業の皆様のご協力により、今期（令和7年4月末）を基準とした業況等について
まとめた報告書です。

岡谷市産業振興部工業振興課・岡谷商工会議所

- 調査実施期間

前年同期	前 期	今 期	来 期
令和6年4月	令和6年10月	令和7年4月	令和7年10月

- 調査業種及び調査企業

(件数)

調査業種	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造	合計
調査企業数	40	27	11	7	12	3	100
回答企業数	40	27	11	7	12	3	100

- 従業員数

人数	0～9人	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50～99人	100人～	合計
企業数	27社	17社	8社	10社	12社	18社	8社	100社

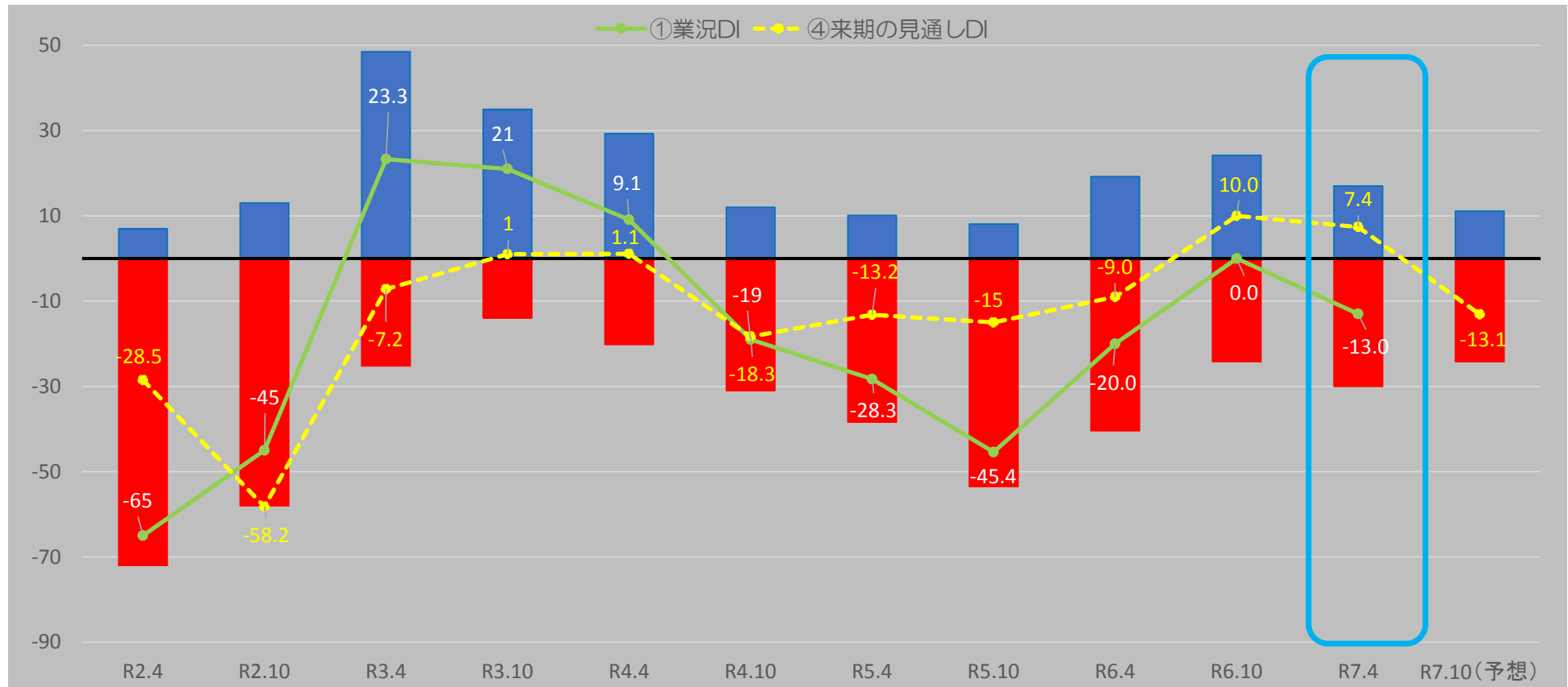
令和7年4月景気動向 調査結果のポイント

- 今期の本市製造業の業況DIは、取引先の生産回復や新規顧客の開拓などにより業況が好転した企業も一部で見られるものの、自動車や半導体関連のほか産業用機械関連分野などで受注の低迷や生産の調整が続いているほか、中国など海外経済の低迷などの影響からマイナス水準に転じています。また、生産額や受注額もマイナス水準に転じています。
- 来期の見通しについては、米国の関税政策による受注の減少や生産調整のほか、原材料価格の高騰などの影響への懸念から3期ぶりにマイナス水準に転じています。
- 米国の関税政策の影響に関して、「影響あり」と回答した企業は約1割、「今後の影響が見込まれる」と回答した企業は約2割、また「現時点では不明・不安」と回答した企業は約6割となりました。業種を問わず、経済の不確実性に企業の不安が高まっている様子が伺えます。

※棒グラフのプラス側は好転(増加、上昇、余裕)の企業の割合、マイナス側は減少(減少、低下、窮屈)の企業の割合です。折れ線グラフ(DI)は好転(増加、上昇、余裕)の企業の割合から減少(減少、低下、窮屈)の企業の割合を引いた差です。折れ線グラフ(来期の見通し)は調査時の来期(6ヵ月後)のDI値です。

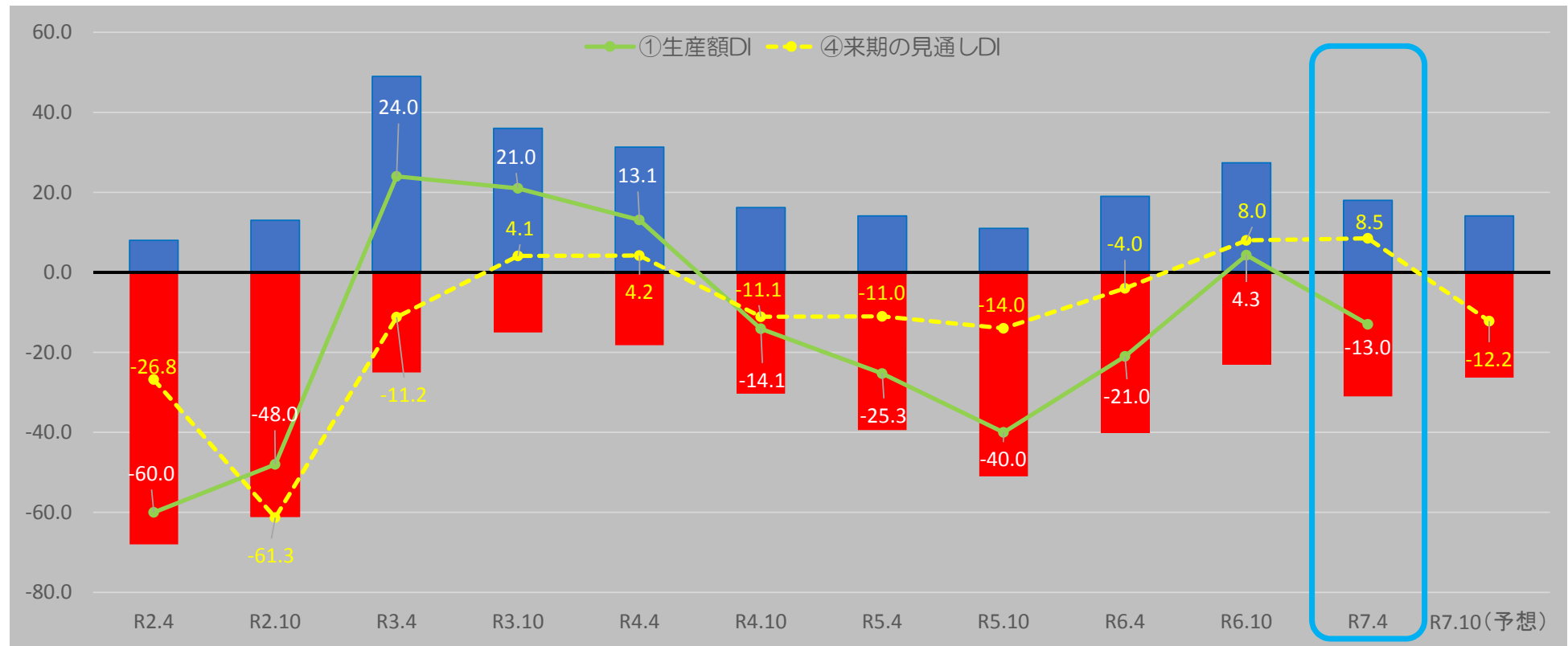
(原材料仕入価格については、棒グラフのプラス側は減少(上昇)の企業割合、マイナス側は好転(減少)の企業の割合です。折れ線グラフ(DI)は減少(上昇)の企業の割合から好転(減少)の企業の割合を引いた差です。)

①業況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



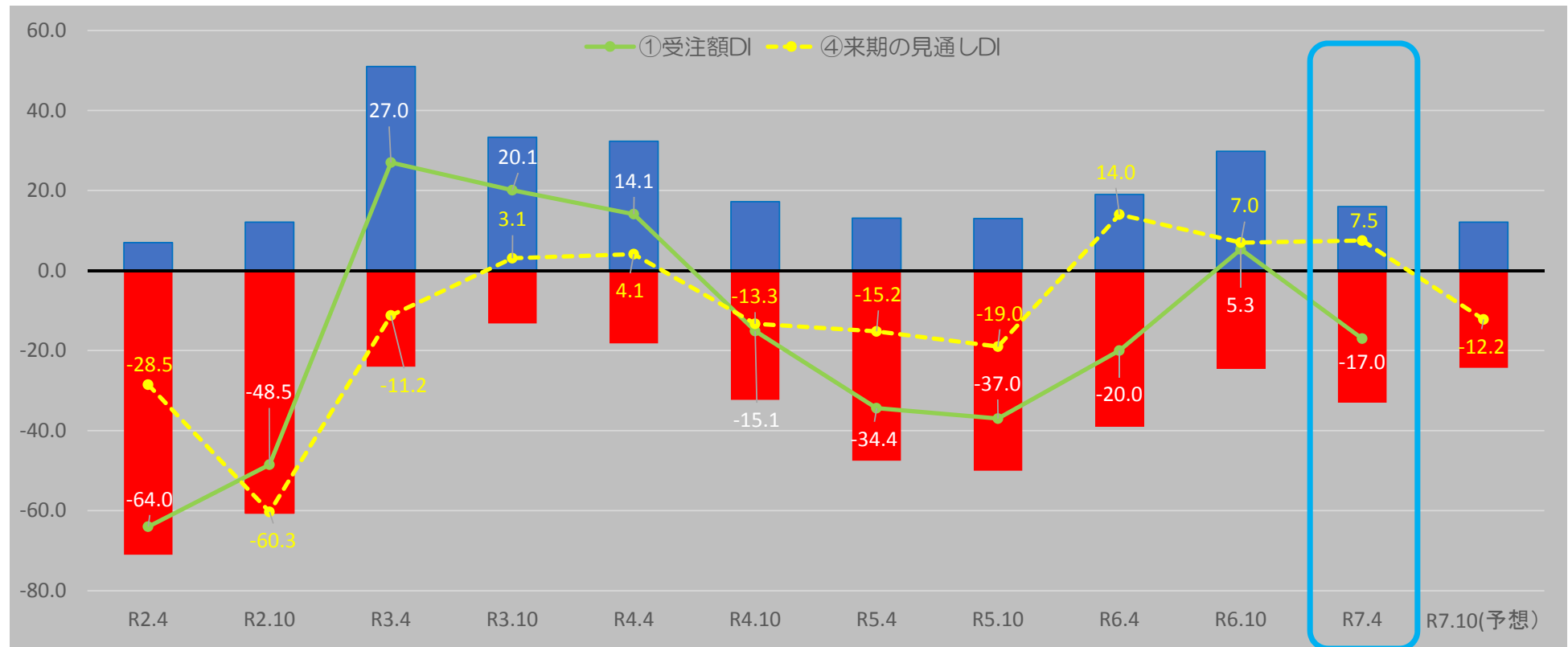
前期と比較したDIは、▲13. 0ポイントとなり、前期の▲0. 0ポイントより13. 0ポイント悪化しました。
また、来期の見通しDIは、▲13. 1ポイントとなり、前期の7. 4ポイントより20. 5ポイント悪化しました。

②生産額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



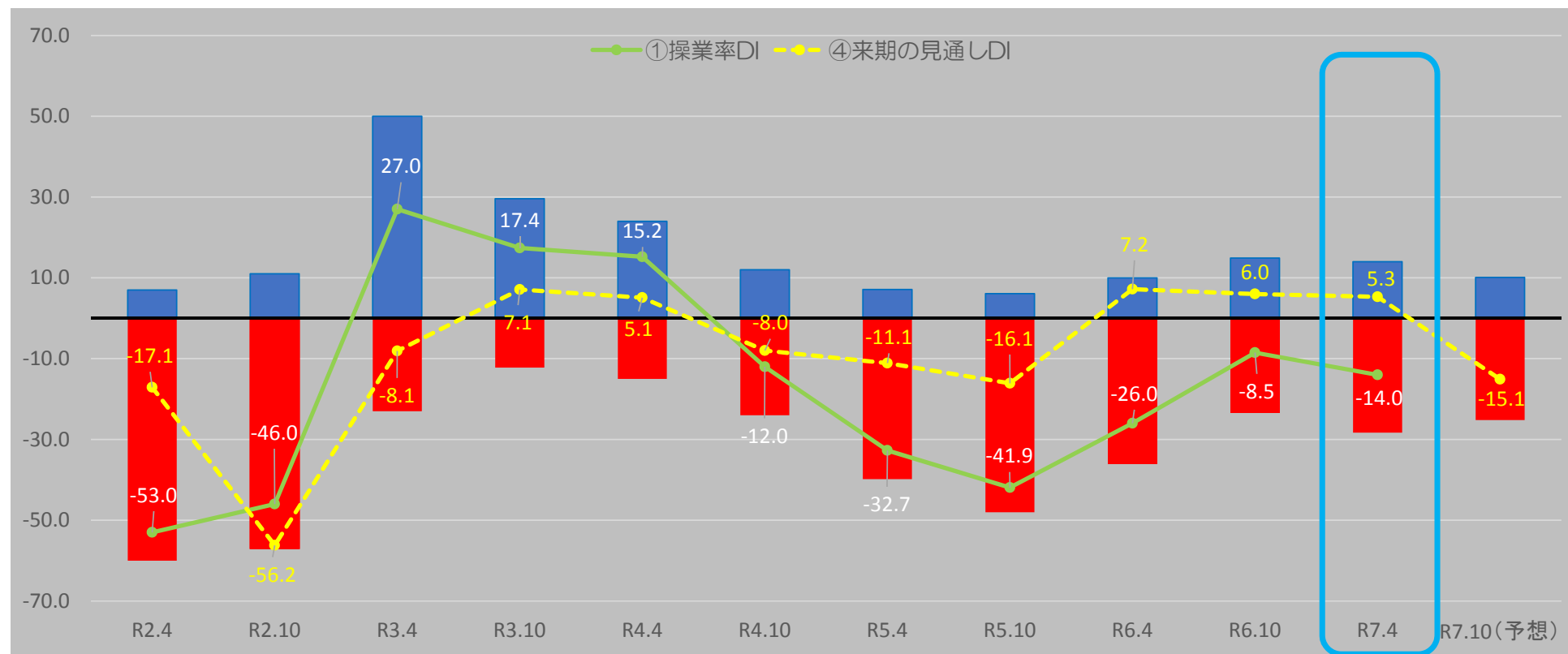
前期と比較したDIは、前期の4.3ポイントより17.3ポイント悪化し、▲13.0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の8.5ポイントより20.7ポイント悪化し、▲12.2ポイントとなりました。

③受注額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



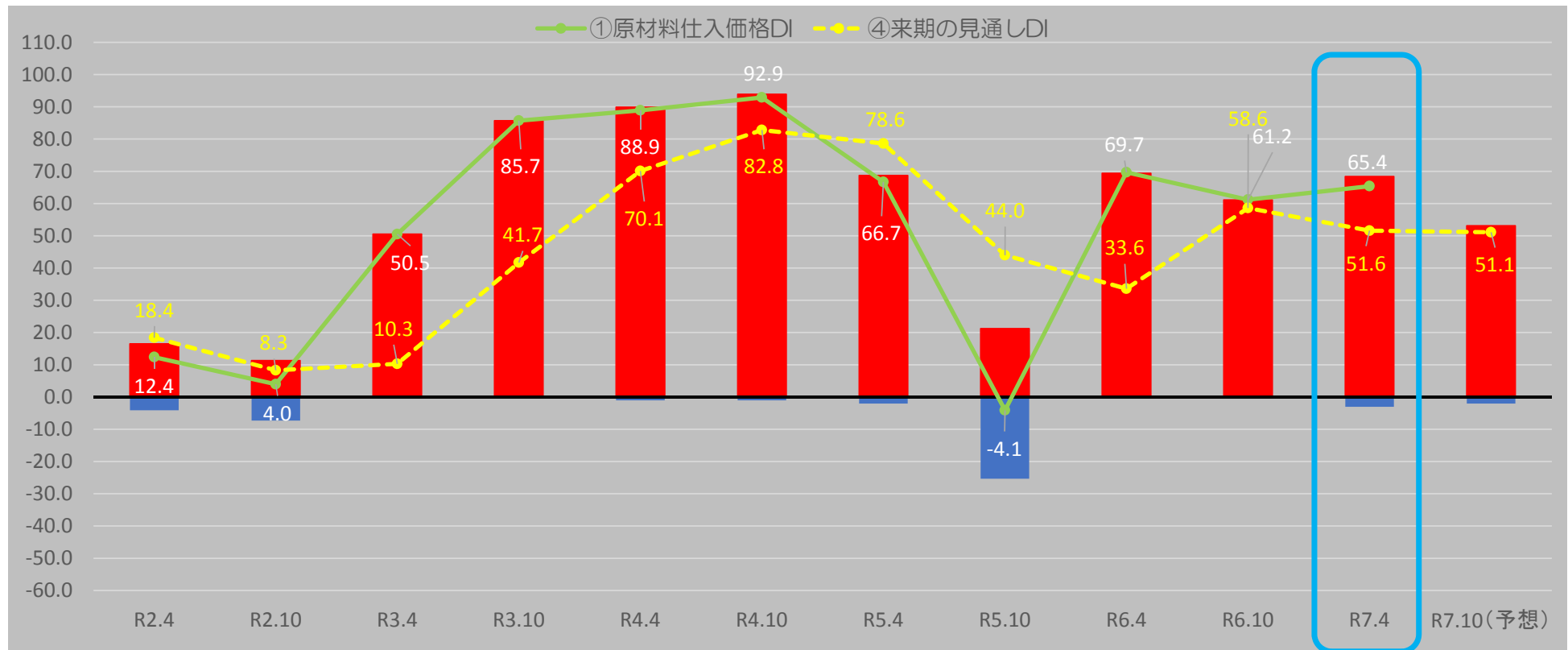
前期と比較したDIは、前期の5.3ポイントより22.3ポイント悪化し、▲17.0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の7.5ポイントより19.7ポイント悪化し、▲12.2ポイントとなりました。

④操業率DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



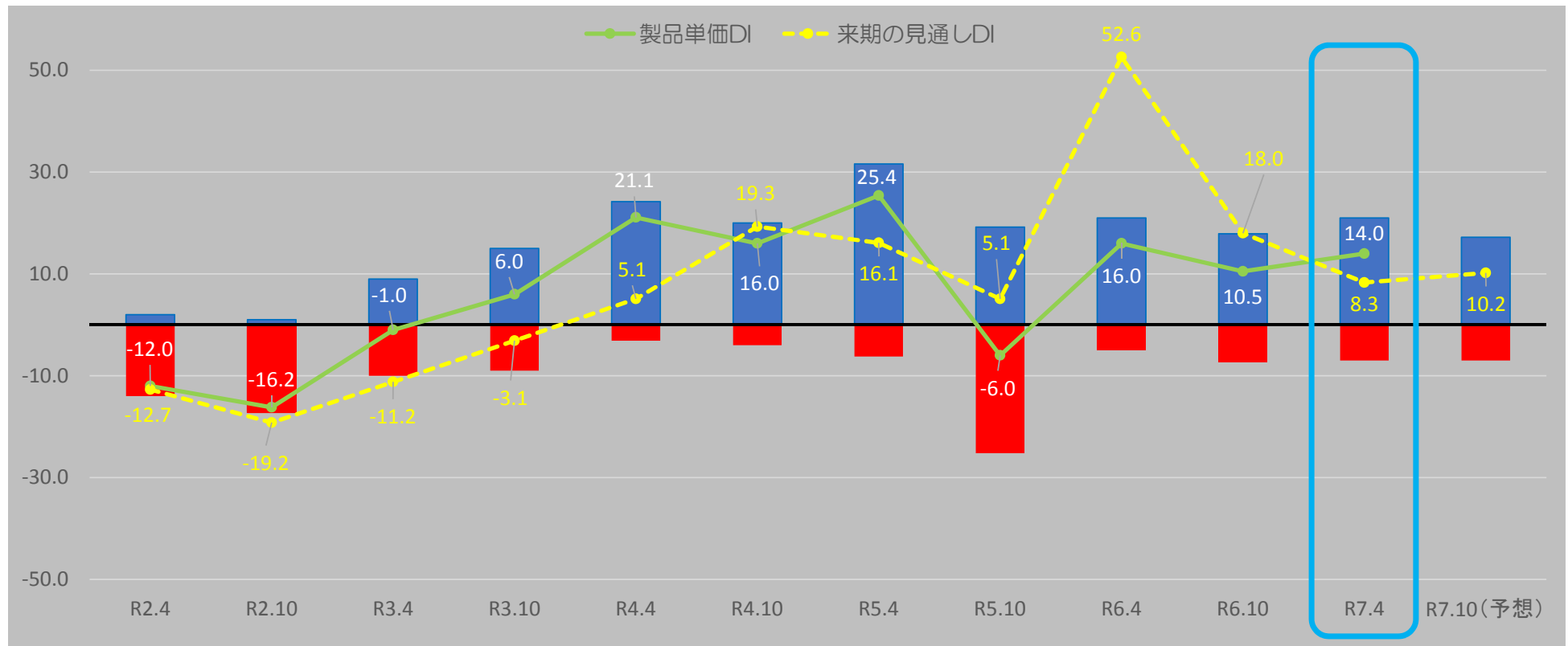
前期と比較したDIは、前期の▲8.5ポイントより5.5ポイント悪化し、▲14.0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の5.3ポイントより20.4ポイント悪化し、▲15.1ポイントとなりました。

⑤原材料仕入価格DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



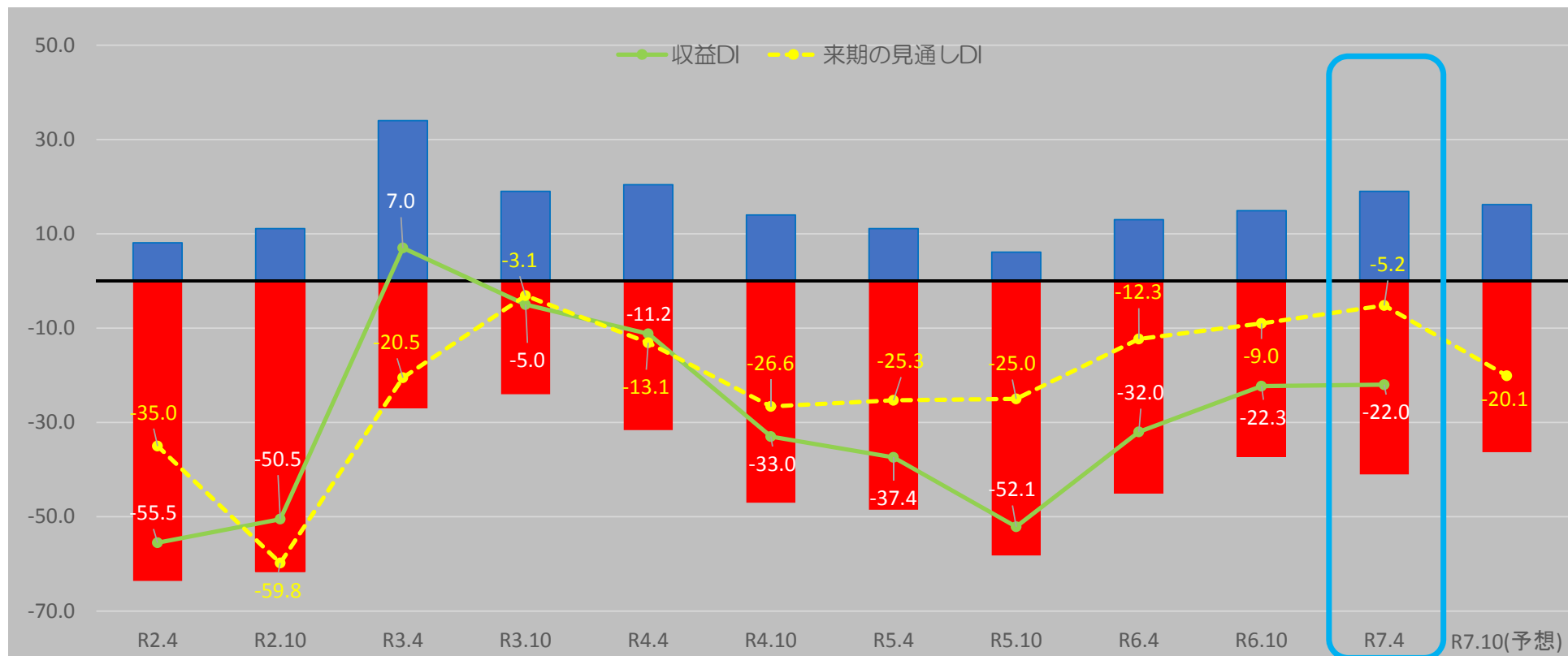
前期と比較したDIは、前期の61. 2ポイントより4. 2ポイント上昇し、65. 4ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の51. 6ポイントより0. 5ポイント減少し、51. 1ポイントとなりました。

⑥製品単価DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



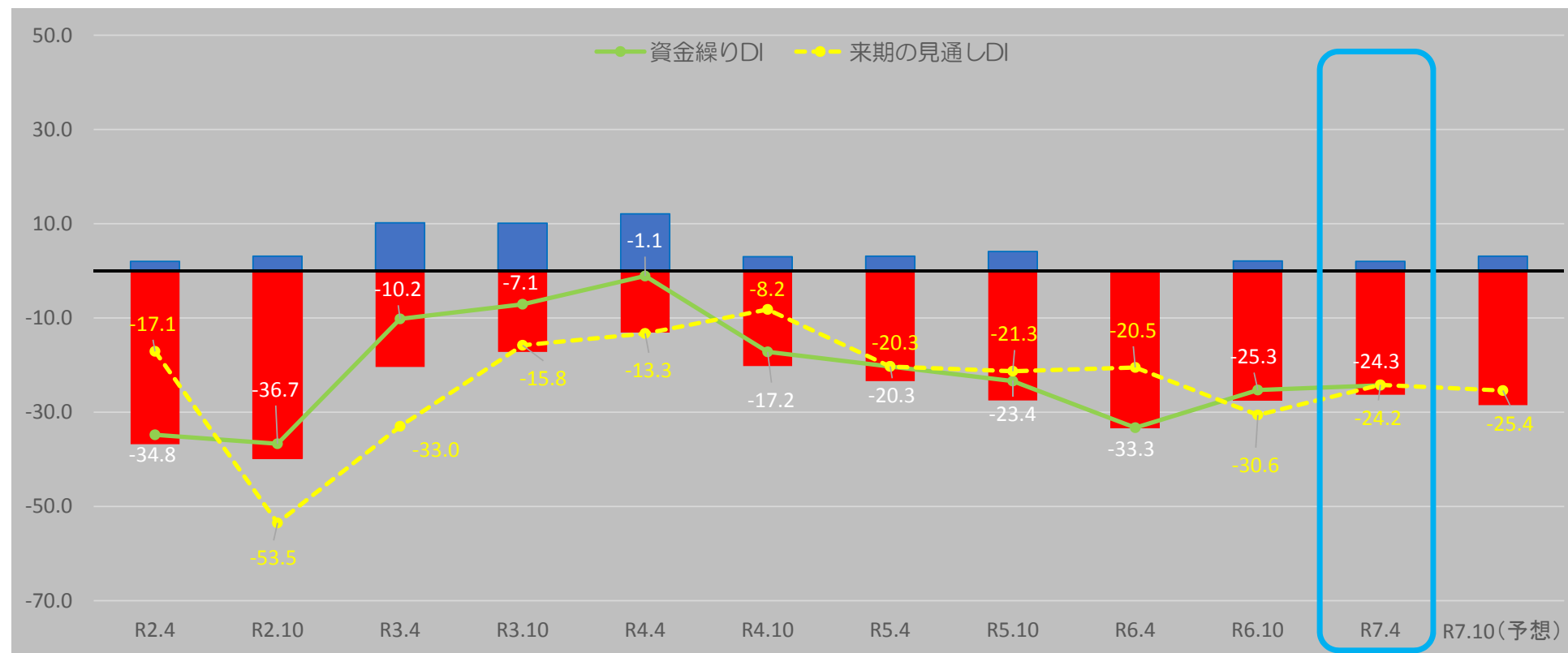
前期と比較したDIは、前期の10.5ポイントより3.5ポイント上昇し、14.0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは前期の8.3ポイントより1.9ポイント上昇し、10.2ポイントとなりました。

⑦収益DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



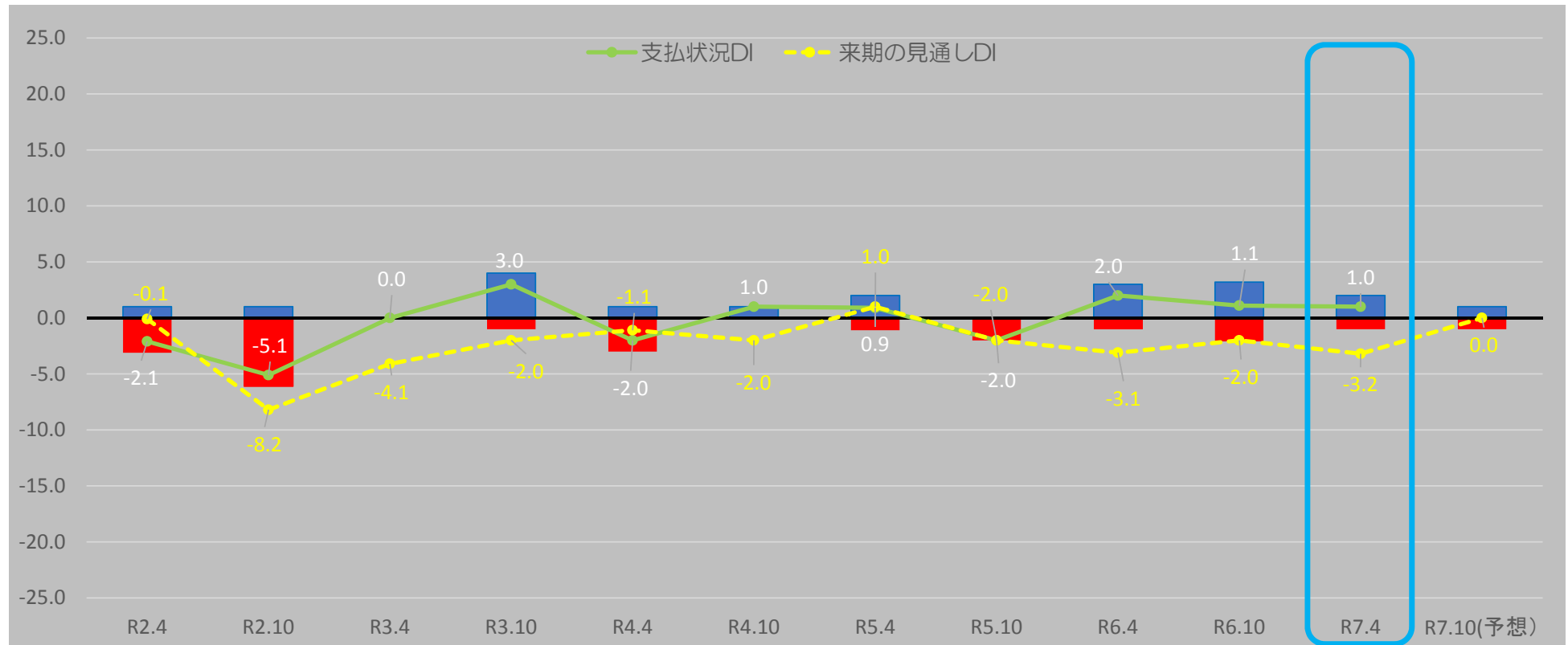
前期と比較したDIは、前期の▲22.3ポイントより0.3ポイント改善し、▲22.0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の▲5.2ポイントより14.9ポイント悪化し、▲20.1ポイントとなりました。

⑧資金繰りDI【前期(6ヶ月前)に比べて】



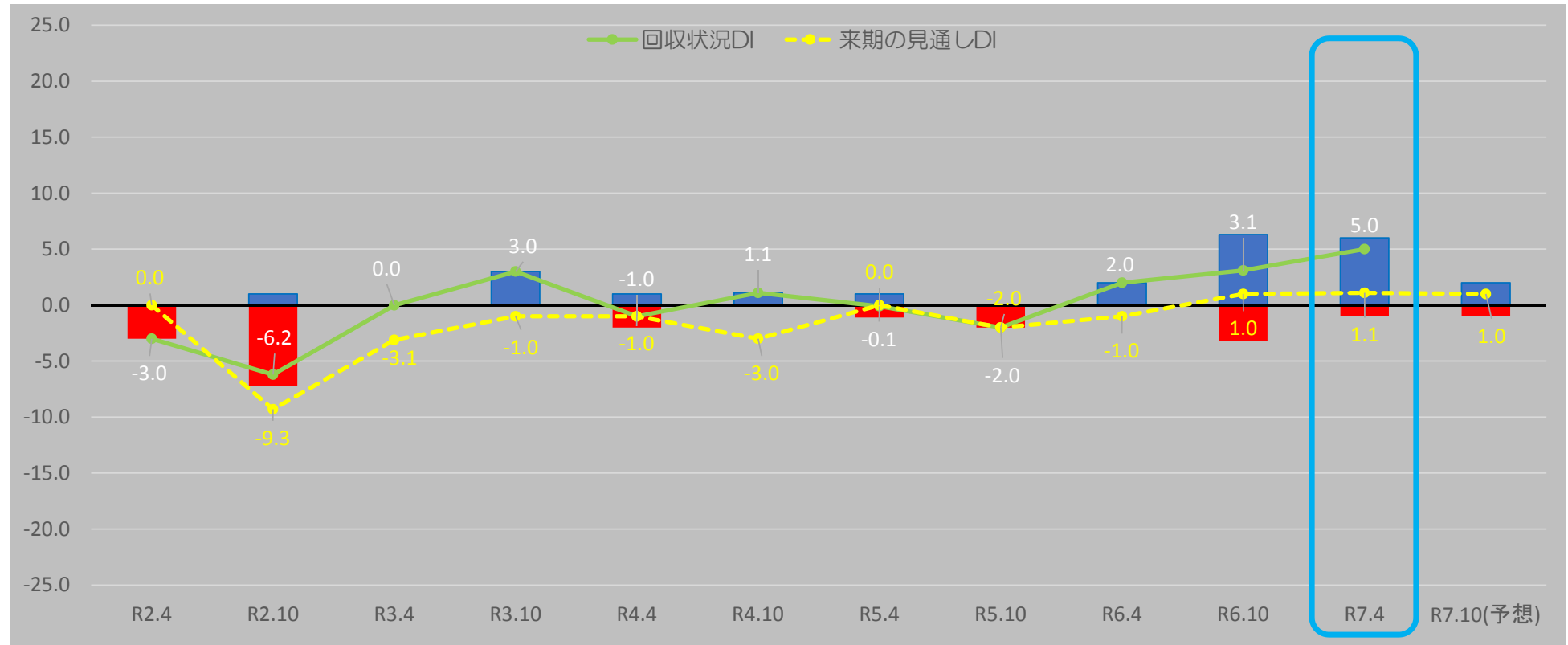
前期と比較したDIは、前期の▲25.3ポイントより1.0ポイント改善し、▲24.3ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の▲24.2ポイントより1.2ポイント悪化し、▲25.4ポイントとなりました。

⑨支払状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比較したDIは、前期の1. 1ポイントより0. 1ポイント減少し、1. 0ポイントとなりました。
 また、来期の見通しDIは、前期の▲3. 2ポイントより3. 2ポイント増加し、0. 0ポイントとなりました。

⑩回収状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比較したDIは、前期の3. 1ポイントより1. 9ポイント増加し、5. 0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の1. 1ポイントより0. 1ポイント減少し、1. 0ポイントとなりました。

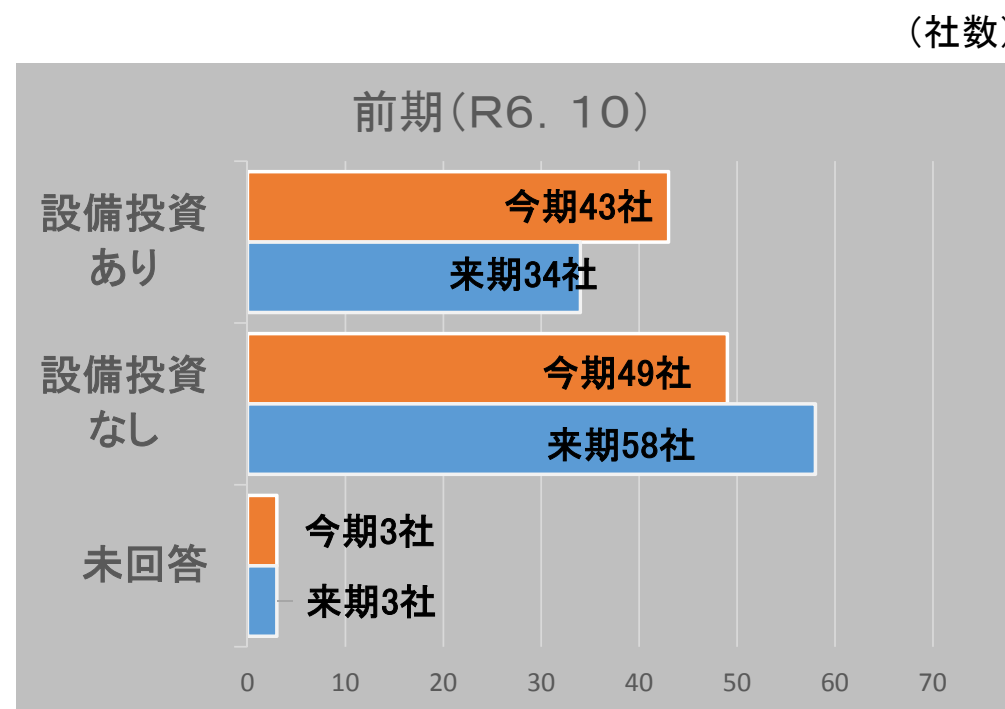
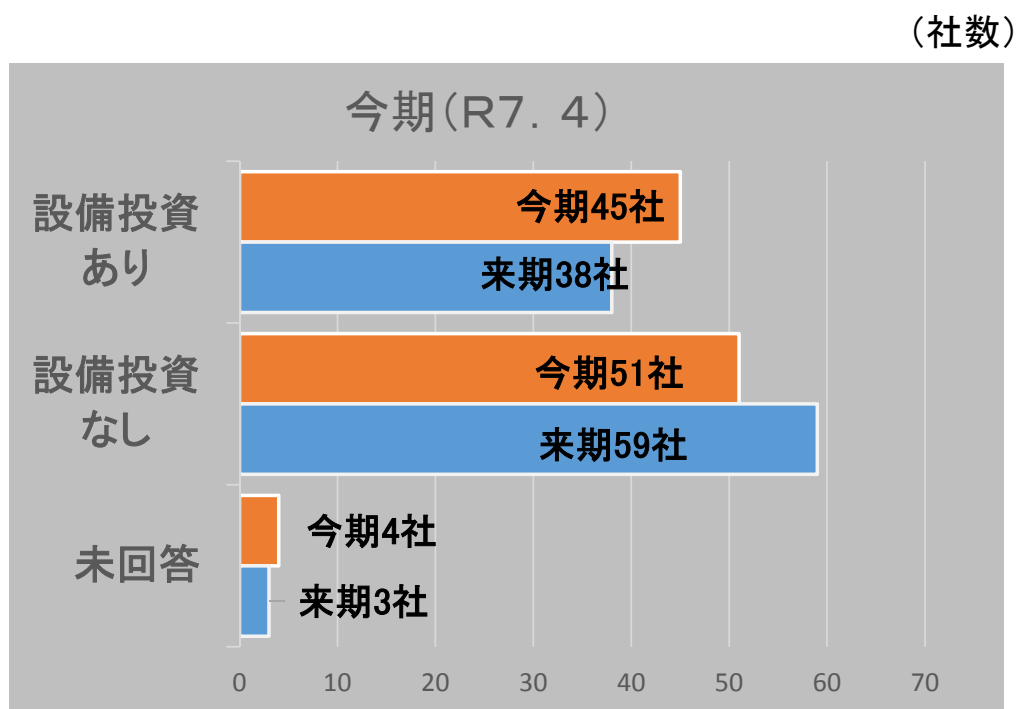
⑪ 今期の業種別業況DI

	精密	機械	電気	計量	表面処理	鑄造
前期に比して	2. 5	▲29. 6	▲18. 2	▲42. 9	▲8. 3	0
前年同期に比して	7. 5	▲29. 6	▲18. 2	▲42. 9	▲8. 3	0

⑫設備投資について

調査企業数:100社(前期95社)

・設備投資の状況について



設備投資を行っている(計画している)と回答した企業が今期45社で、前期43社より増加しており、来期に設備投資を行う予定の企業は38社で、前期34社より増加しています。

⑬ 米国関税政策の影響について

調査企業数：100社（回答98社）

1 関税政策等の影響

項目	回答数
現時点で影響を受けている	10社
今後、影響を受ける見込みがある	19社
現時点ではわからないがこの先を心配する	59社
影響はない	10社

- 影響を受けている企業の声
 - ・材料価格の変動
 - ・輸出品の出荷調整の見込み
- 追加ヒアリングの結果：
 - ・明確な受注の減少が発生しているわけではなく、取引先からの情報や仕入れ部品等の値上がりなどの影響が見られる状況である
 - ・中国とアメリカの貿易摩擦による影響

2 影響が心配な分野（複数回答可）

項目	回答数
相互関税に該当する項目	29
自動車及び関連部品	41
鉄鋼、アルミ製品	30
半導体関連部品	41
その他（銅、木材など）	6

- 影響を受ける見込み、この先を心配する企業の声
 - ・自動車や半導体業界など関係する業界での生産計画の見直し
 - ・取引先の生産調整
 - ・設備投資の延期や中止、意欲の低下
 - ・原材料仕入れ価格への影響
 - ・中国、東南アジアなどの諸外国景気の低迷による影響

関税政策の影響について、「現時点で影響を受けている」企業が1割、「今後、影響を受ける見込みがある」企業が2割、「現時点ではわからないがこの先を心配する」企業が6割となりました。

影響が心配な分野としては、相互関税のほか、自動車、鉄鋼アルミ製品、半導体関連などの幅広い分野への回答が多く見られます。

⑭今後力を入れた取り組み(複数回答可)

調査企業数:100社(回答93社)

項目	回答数	項目	回答数
機械やシステム導入による 自動化・省人化・省力化	49	新技術・新製品等の開発	27
熟練技能者の技術承継（標準化など）	36	省エネ化に寄与する設備導入・更新等	22
後継者の育成	35	工場の新設・増設	10
販路開拓（展示会への出展、市場調査など）	33	事業承継やM&A	10
社内のデジタル化の推進（A I ・ I O T 機器、 事務系のシステムなどの導入）	32	その他 （人材の採用やスキルアップ、管理職養成、従業員の福利厚生等）	2

「自動化・省人化・省力化に資する設備の導入」、「デジタル化の推進」への取組意識が高いことから、慢性的な人手・人材不足などの課題を背景とした生産性の向上、業務の効率化に向けた取り組みが見込まれています。

また、「熟練技能者の技術承継」、「後継者の育成」など担い手の確保や人材育成についても経営課題として取り組みが予定されています。